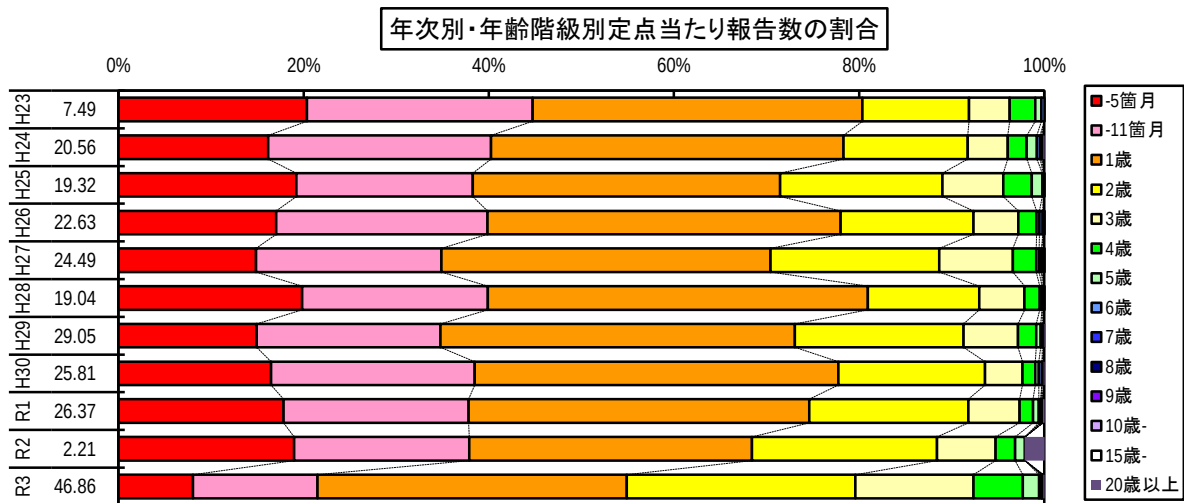


(ア) RSウイルス感染症

年齢階級別で比較すると、1歳(33.4%)が最も多く、次いで2歳(24.7%)、6箇月～11箇月(13.4%)、の順となり、2歳以下が全体の79.6%を占めた。



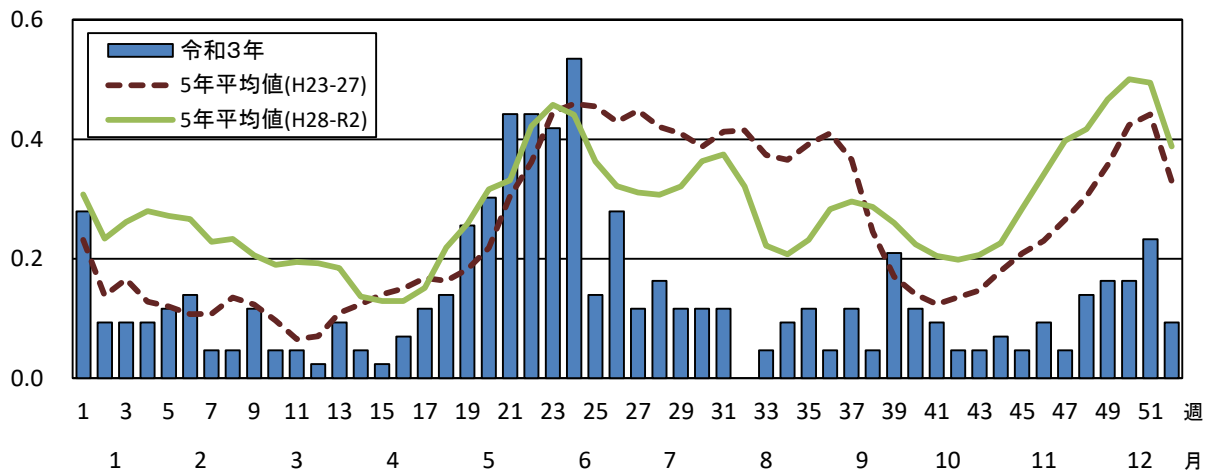
(イ) 咽頭結膜熱

令和3年は年間報告数305例、年間定点当たり報告数7.09、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.48、前年比1.02であった。過去10年間の年間定点当たり報告数では、平成24年、令和2年に次いで少ない。

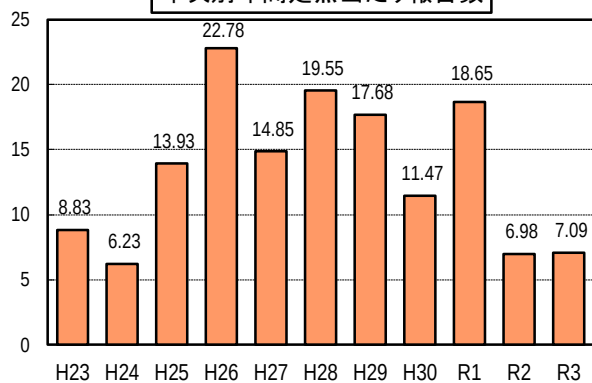
月別定点当たり報告数では、5月(1.58)、6月(1.37)が多かった。

年齢階級別では、1歳(53.1%)が最も多く、次いで2歳(20.0%)、6箇月～11箇月(9.8%)、3歳(8.2%)の順となり、3歳以下が全体の91.1%を占めた。

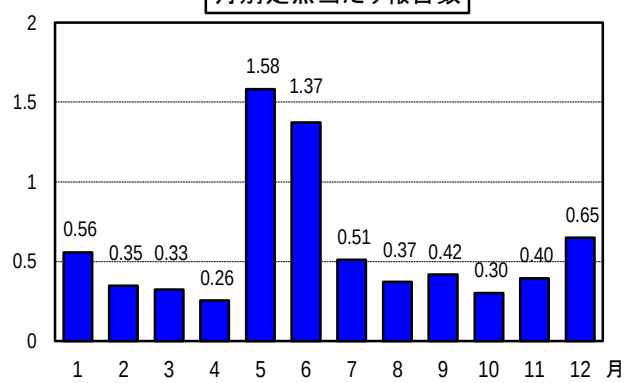
週別定点当たり報告数の推移



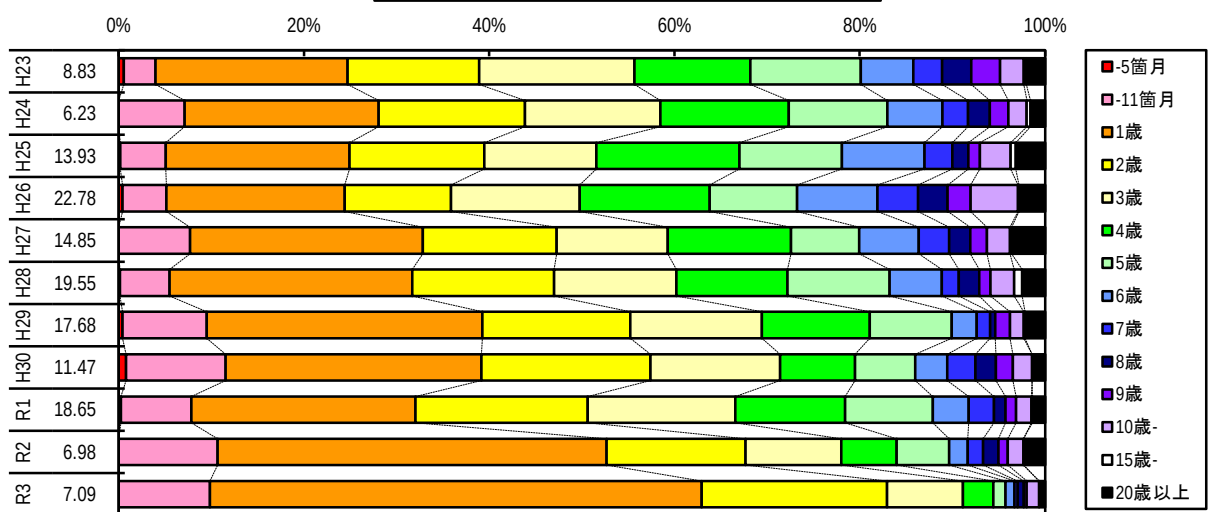
年次別年間定点当たり報告数



月別定点当たり報告数



年次別・年齢階級別定点当たり報告数の割合



## (ウ) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

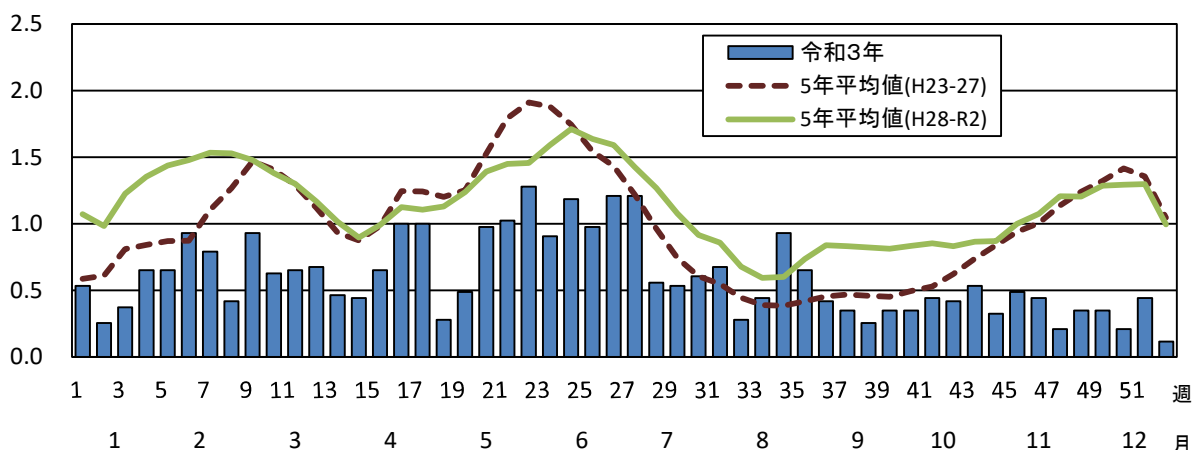
令和3年は年間報告数1,346例、年間定点当たり報告数31.30、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.53、前年比0.68であった。

過去10年間の年間定点当たり報告数は、最も少なかった。

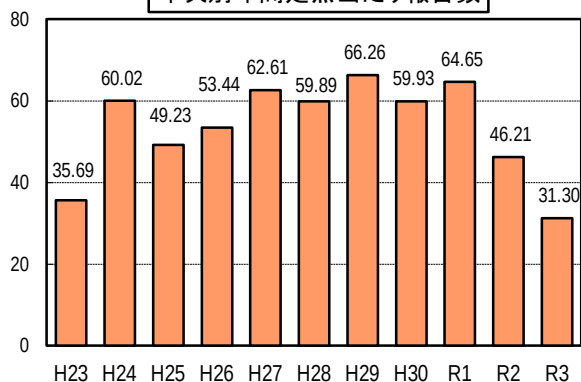
月別定点当たり報告数では、6月(4.28)、5月(4.05)、3月(3.35)の順に多かった。

年齢階級別では、2歳(15.3%)が最も多く、次いで1歳(14.6%)、4歳(12.7%)、3歳(10.5%)の順となり、1歳～4歳が53.0%を占めた。

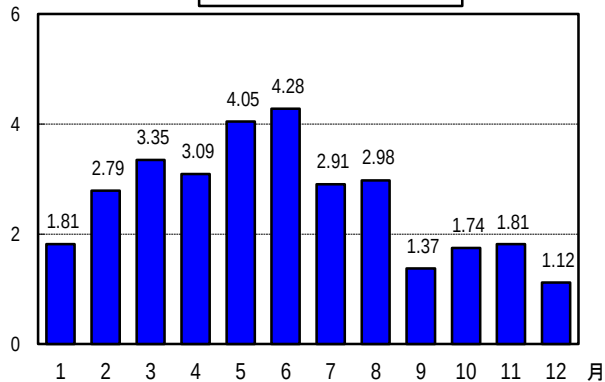
週別定点当たり報告数の推移



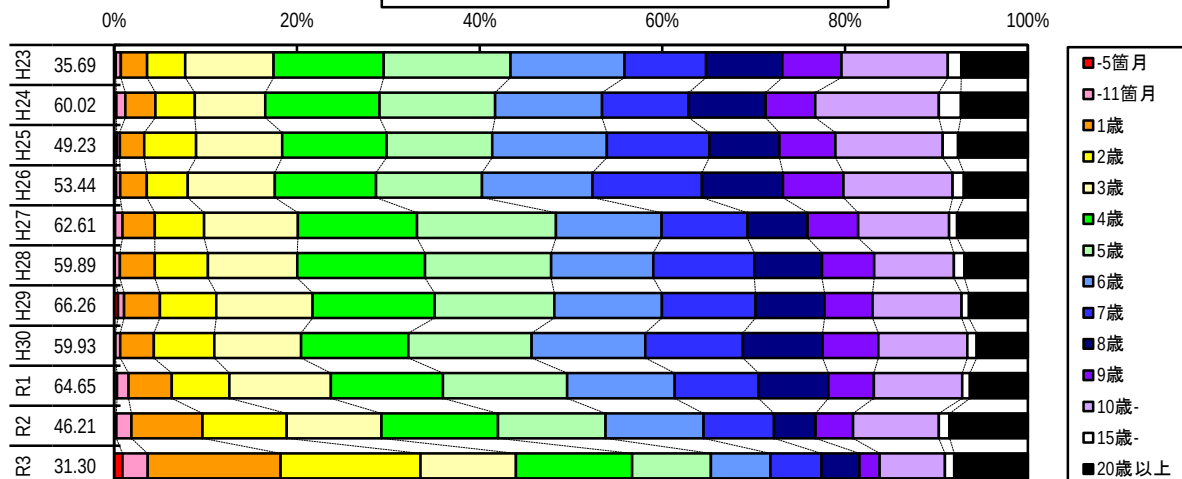
年次別年間定点当たり報告数



月別定点当たり報告数



年次別・年齢階級別定点当たり報告数の割合



## (I) 感染性胃腸炎

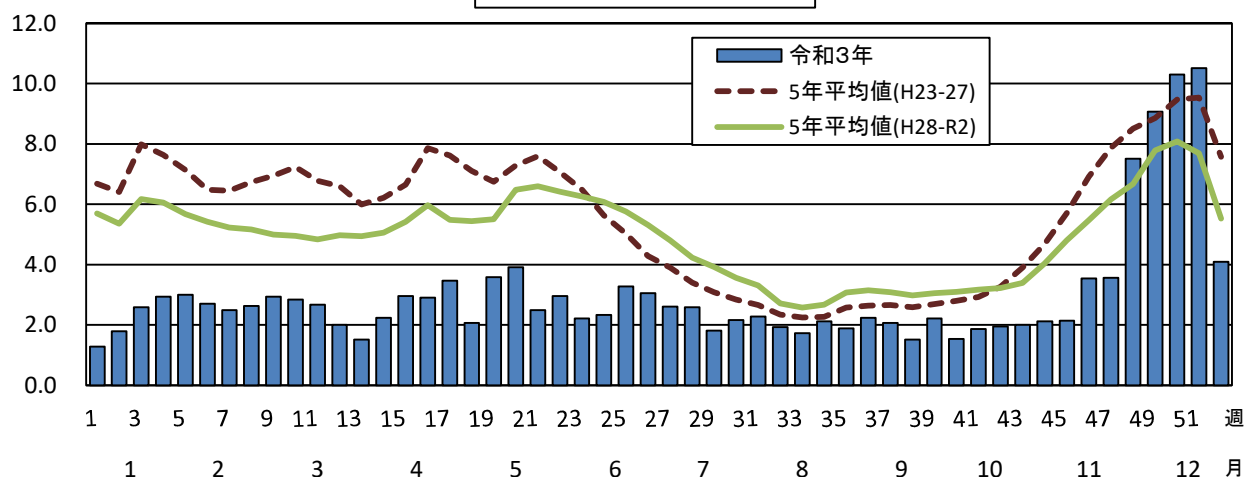
令和3年は年間報告数6,712例、年間定点当たり報告数156.09、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.61、前年比1.63であった。

過去10年間の年間定点当たり報告数では、令和2年に次いで少なかった。

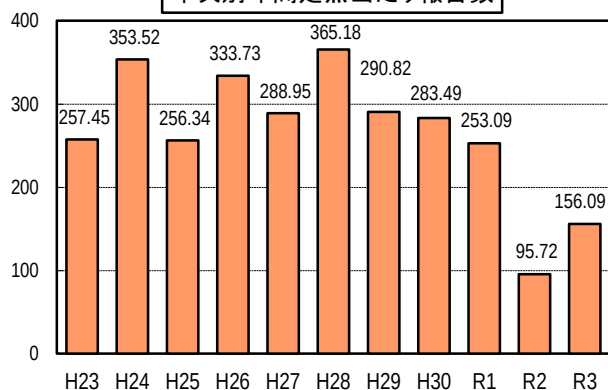
月別定点当たり報告数では12月(33.98)、11月(18.86)、5月(15.00)の順に多かった。

年齢階級別では、1歳(18.1%)が最も多く、次いで2歳(15.4%)、3歳(11.7%)、の順となるが、1～4歳で全体の54.3%を占めた。

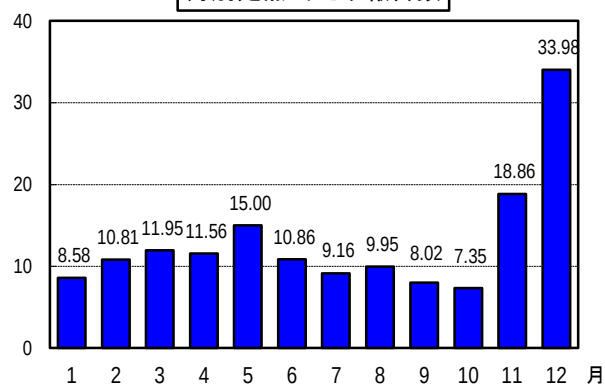
週別定点当たり報告数の推移



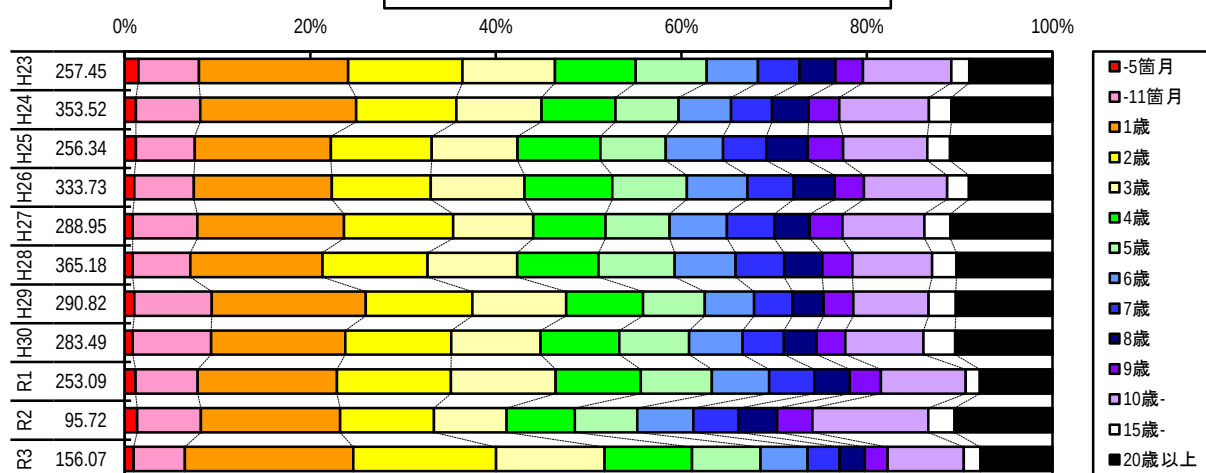
年次別年間定点当たり報告数



月別定点当たり報告数



年次別・年齢階級別定点当たり報告数の割合



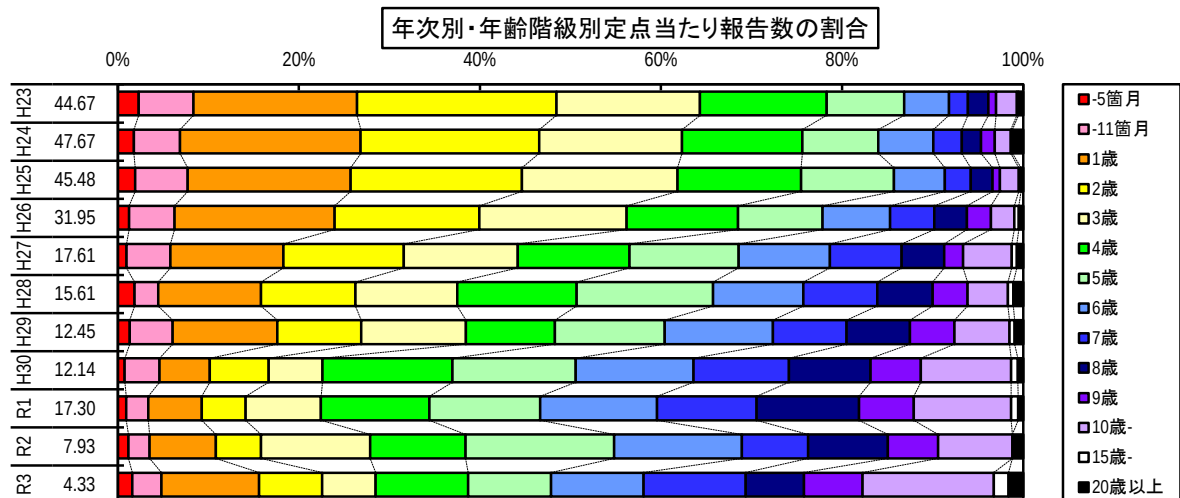
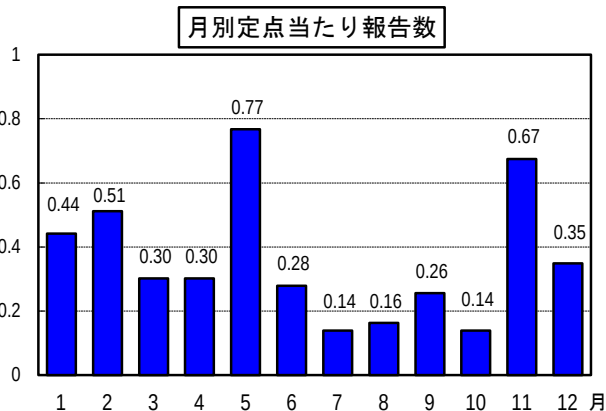
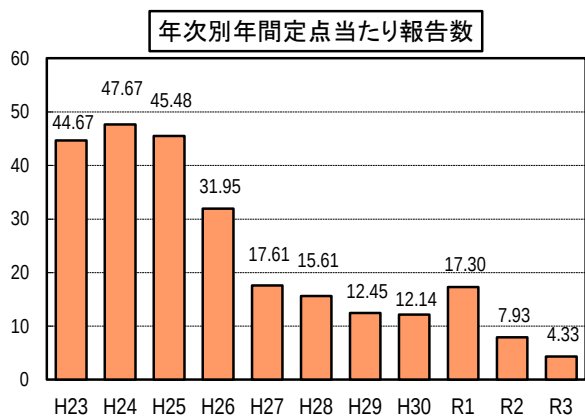
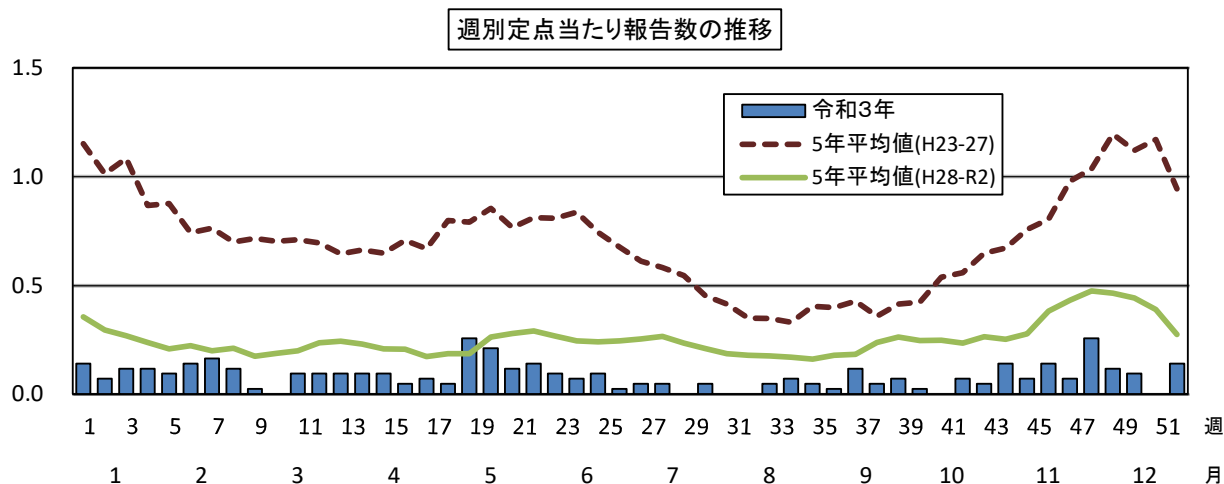
## (オ) 水痘

令和3年は年間報告数186例、年間定点当たり報告数4.33、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.33、前年比0.55であった。

年間定点当たり報告数は平成25年から減少し、過去10年間の年間定点当たり報告数では、最も少なかった。

月別定点当たり報告数では、5月(0.77)、11月(0.67)、2月(0.51)の順に多かった。

年齢階級別では、10～14歳(14.5%)、7歳(11.3%)、1歳(10.8%)の順に多かった。



(カ) 手足口病

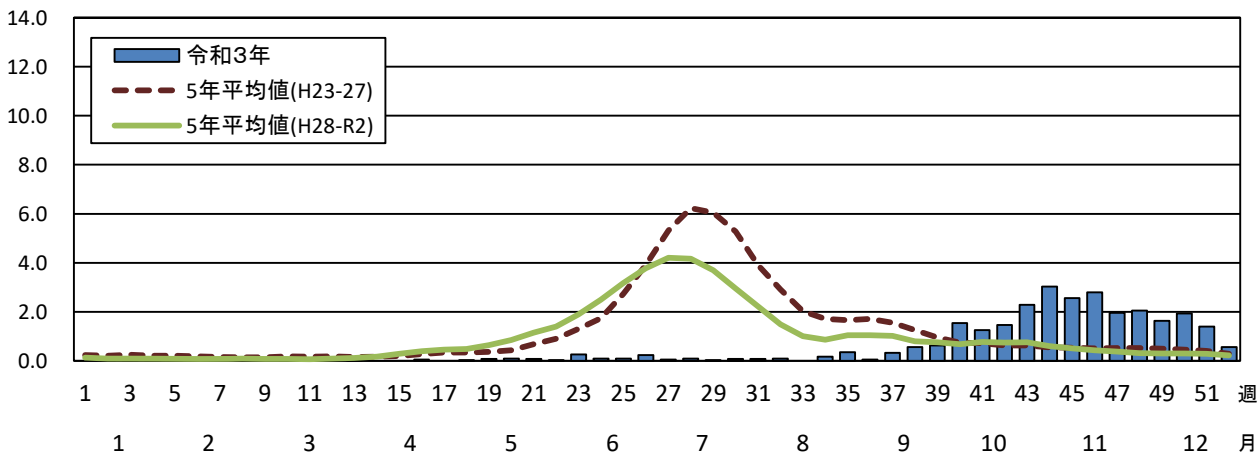
令和3年は年間報告数が1,217例、年間定点当たり報告数は28.30、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.57、前年比8.39であった。第45週頃にピークを迎え、例年第30週頃にピークを迎える傾向と大きく異なった。

過去10年間の年間定点当たり報告数では、5番目に少なかった。

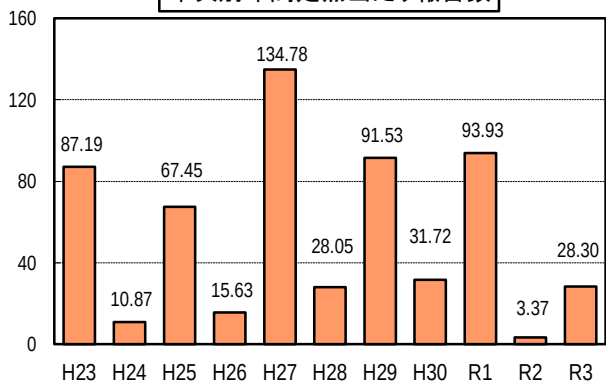
月別定点当たり報告数は、11月(12.37)、10月(6.53)、12月(5.51)の順に多かった。

年齢階級別では、1歳(45.9%)が最も多く、次いで2歳(31.5%)、6箇月～11箇月(8.1%)、3歳(7.8%)の順となり、2歳以下が全体の85.7%を占めた。

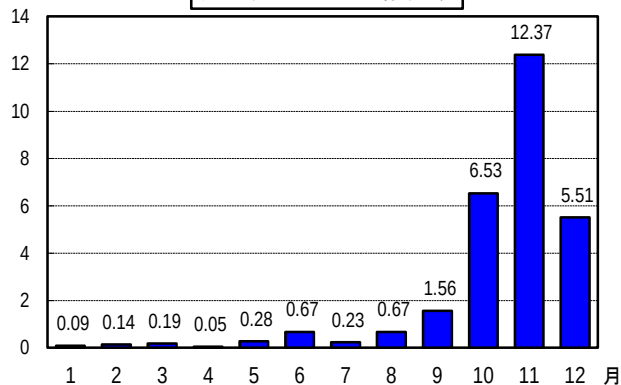
週別定点当たり報告数の推移



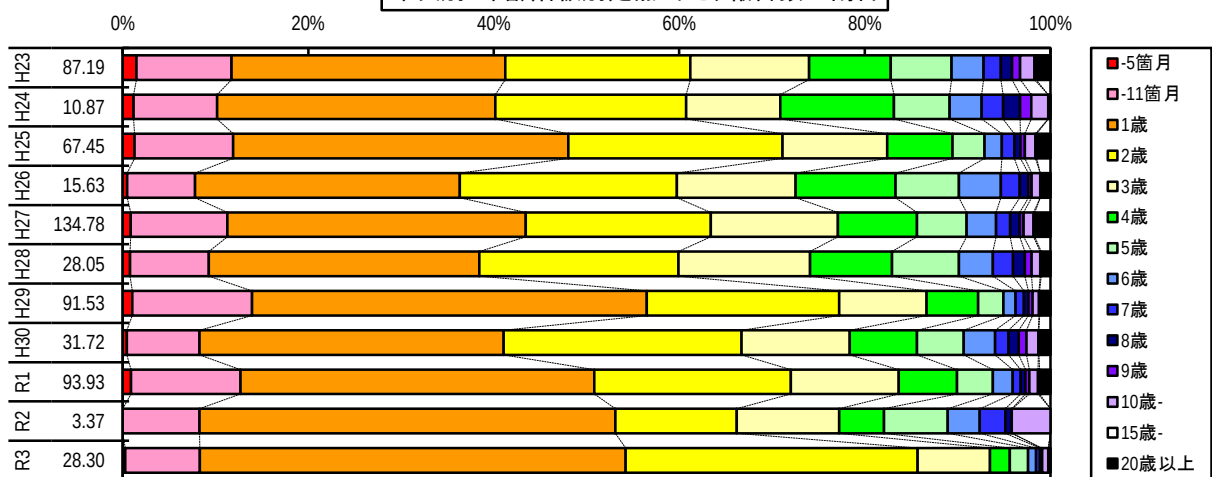
年次別年間定点当たり報告数



月別定点当たり報告数



年次別・年齢階級別定点当たり報告数の割合



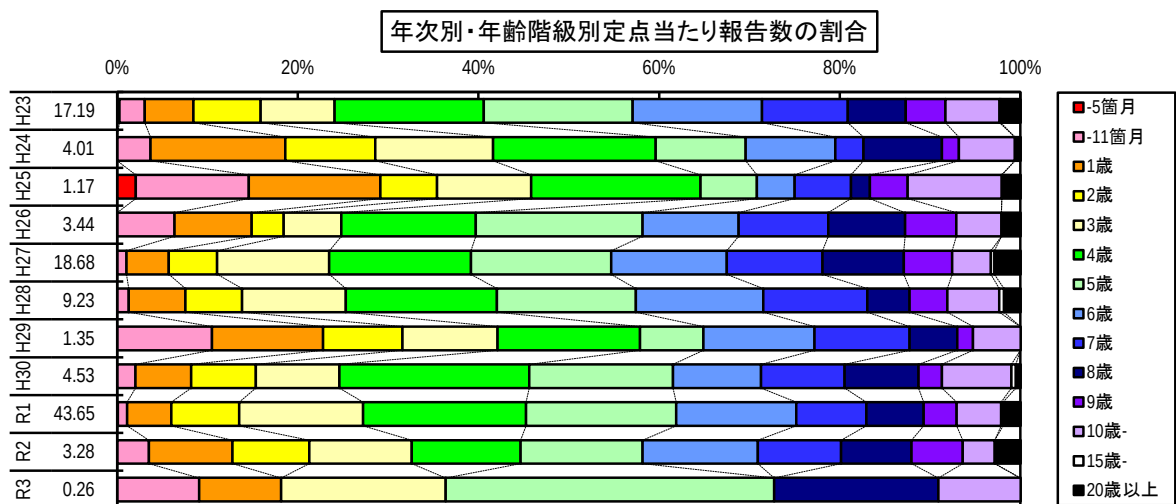
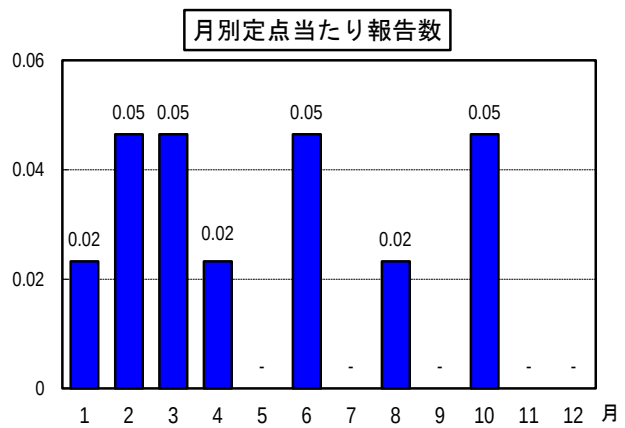
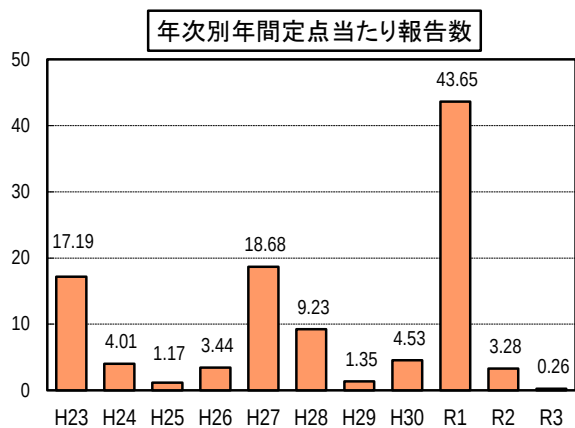
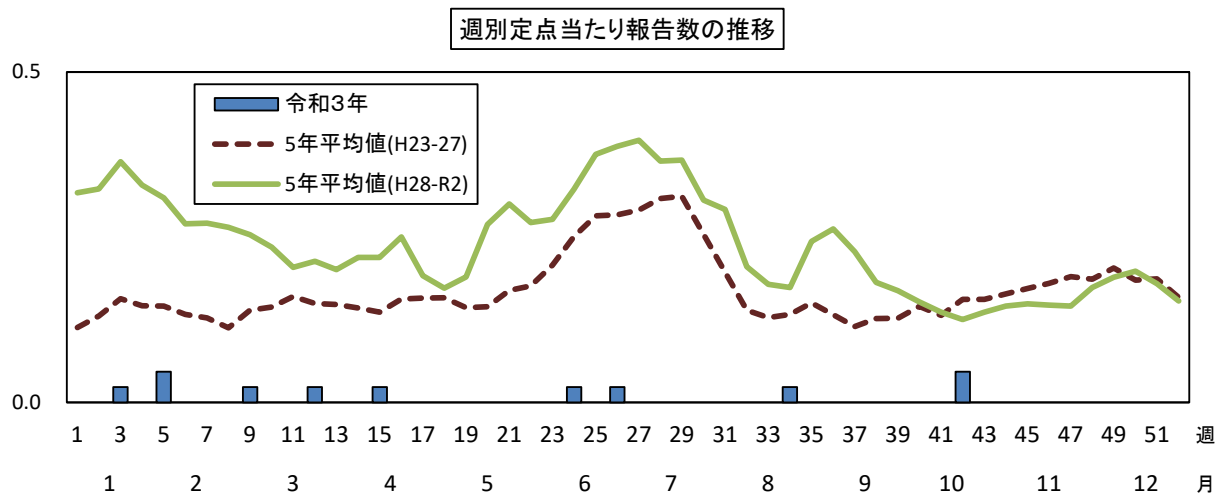
(キ) 伝染性紅斑

令和3年は年間報告数11例、年間定点当たり報告数0.26、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.02、前年比0.08であった。

過去10年間の年間定点当たり報告数では、最も少なかった。

月別定点当たり報告数は、年間を通じてほぼ一定だった。

年齢階級別では、5歳(4例、36.4%)、3歳及び8歳(各2例、18.2%)の順に多かった。



### (ク) 突発性発しん

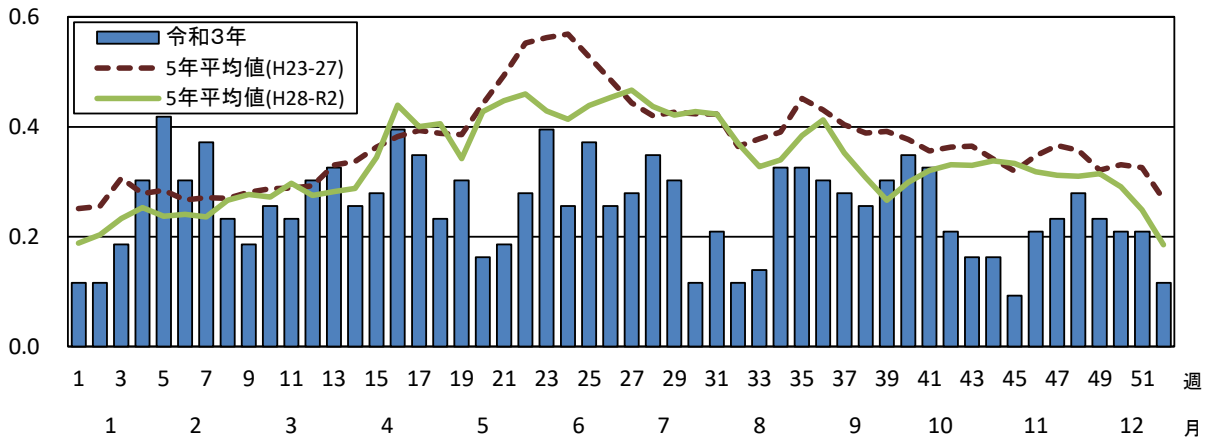
令和3年は年間報告数566例、年間定点当たり報告数13.16、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.75、前年比0.83であった。

過去10年間の年間定点当たり報告数では全ての年次でほとんど変化がないが、最も少なかった。

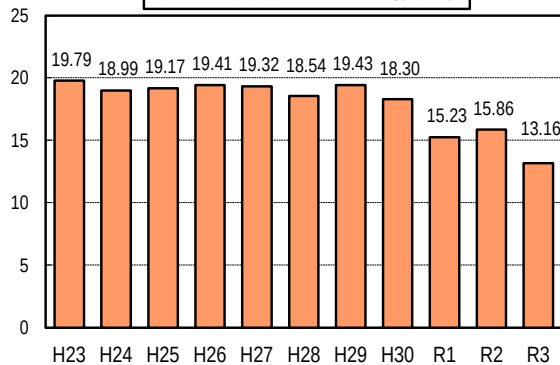
月別定点当たり報告数では、2月(1.33)が最も多く、次いで3月(1.30)、4月及び6月(共に1.28)の順に多かった。

年齢階級別では、1歳(52.7%)が半数以上を占め、次いで6箇月～11箇月(30.9%)が多く、1歳以下が全体の84.5%を占めた。

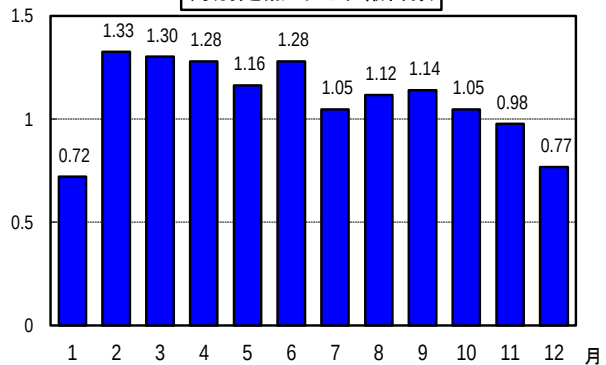
週別定点当たり報告数の推移



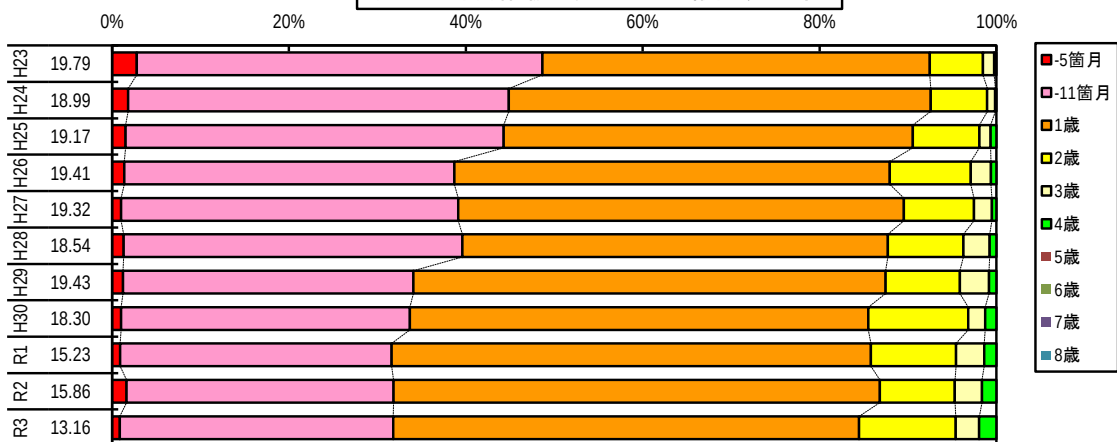
年次別年間定点当たり報告数



月別定点当たり報告数



年次別・年齢階級別定点当たり報告数の割合





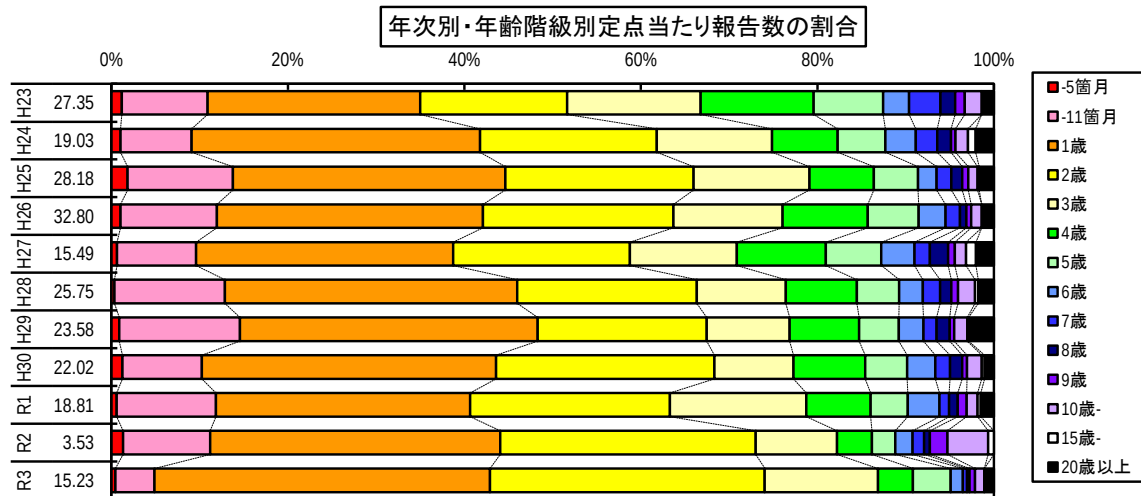
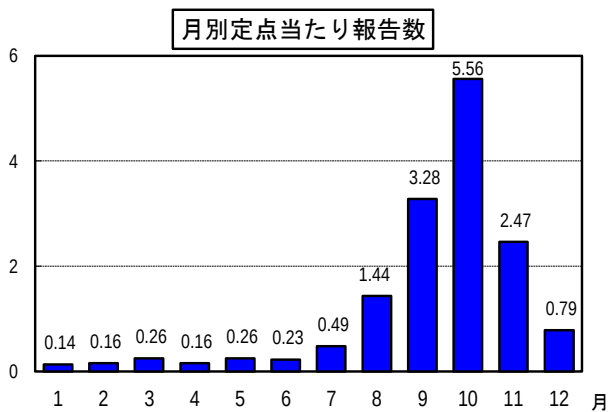
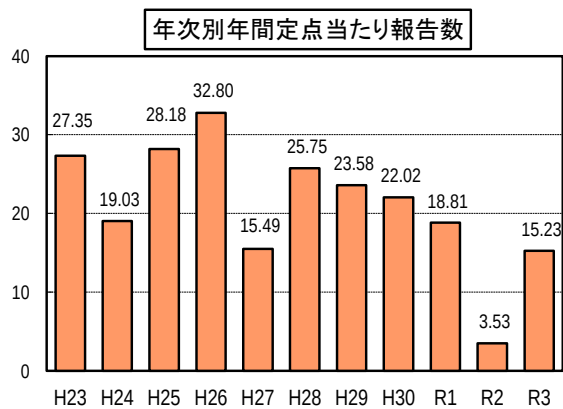
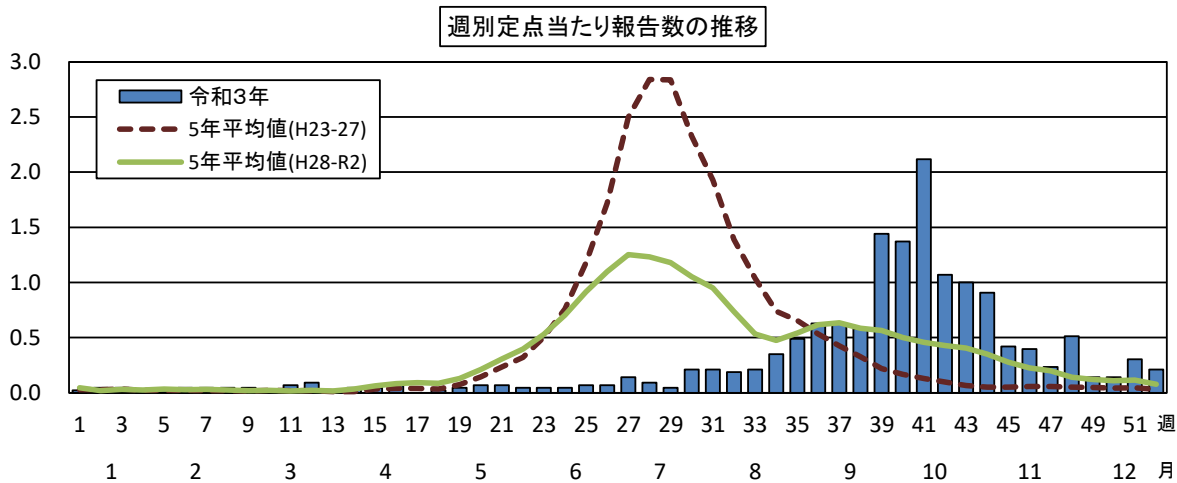
(ケ) ヘルパンギーナ

令和3年は年間報告数655例、年間定点当たり報告数15.23、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.81、前年比4.31であった。

過去10年間の年間定点当たり報告数では、令和2年に次いで少ない。

月別定点当たり報告数では、10月(5.56)、9月(3.28)、11月(2.47)の順に多かった。例年は7月頃にピークを迎えており、傾向が大きく異なった。

年齢階級別で比べると、1歳(38.0%)が最も多く、次いで2歳(31.1%)、3歳(12.8%)の順で、1歳～3歳が全体の82.0%を占めた。



(二) 流行性耳下腺炎

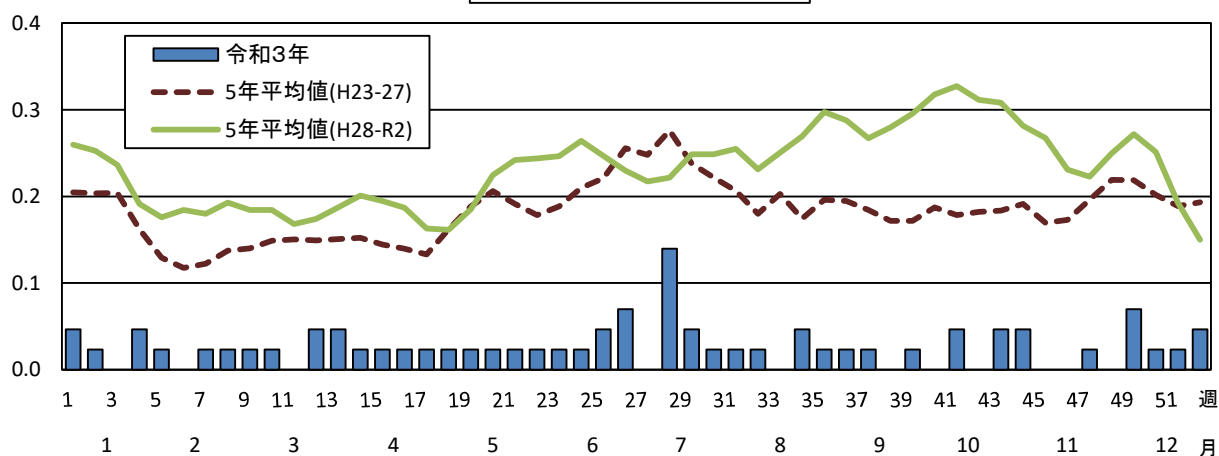
令和3年は年間報告数61例、年間定点当たり報告数1.42、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.12、前年比1.45であった。

過去10年間の年間定点当たり報告数は、令和2年に次いで少なかった。

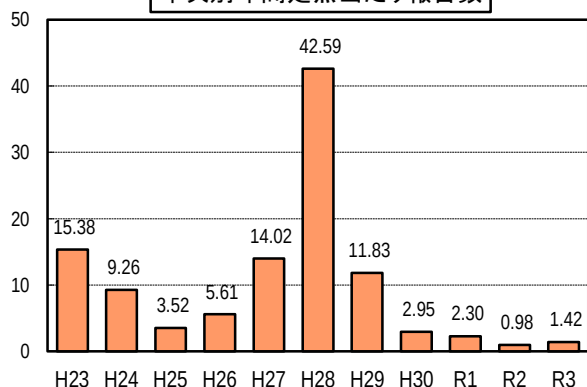
月別定点当たり報告数では、7月(0.21)が最も多いが、年間を通してほぼ一定であった。

年齢階級別では、4歳(23.0%)、5歳(16.4%)、6歳(11.5%)の順に多かった。

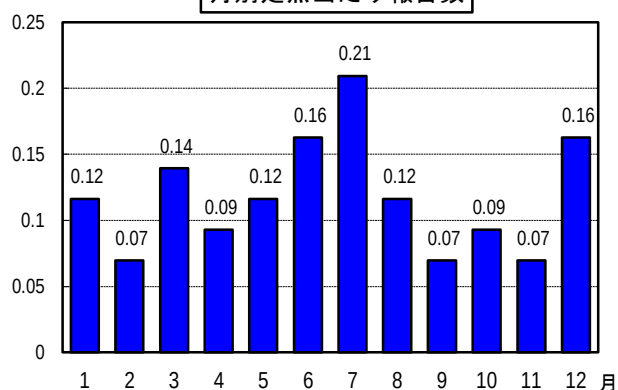
### 週別定点当たり報告数の推移



年次別年間定点当たり報告数



月別定点当たり報告数



年次別・年齢階級別定点当たり報告数の割合

